

ゴイシツバメシジミの郷を守る会 会報

ゴイシツバメシジミの郷



シシンランの蕾に産卵中のゴイシツバメシジミ（雌）

この写真は、水上村役場企画観光課から提供いただいたものです。（撮影日：平成22年7月21日）

ちょっと紹介します



シジミちゃん

ゴイシツバメシジミの郷を守る会 事務局
〒868-0701

熊本県球磨郡水上村岩野2678 岩野公民館内
電話：0966-44-0333 FAX：0966-44-0329

水上村の総合型地域クラブ「水上元気クラブ」のマスコットキャラクターとして考案された「シジミちゃん」です。見た目はちょっとわかりにくいかもしれませんが、ゴイシツバメシジミをモデルにしています。クラブの募集チラシでは、スポーツや生涯学習のメニューに合わせていろいろな格好をして登場します。

「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」設立にむけて

九州大学名誉教授 三枝 豊平

ゴイシツバメシジミが日本から初めて市房山で発見されたのは、今から 50 年前の 1973 年（昭和 48 年）の事です。発見者の九州農政局勤務の蝶愛好家、小林隆史さんが私の恩師の故白水隆先生や私が勤めていた九州大学に 1 頭の♂の蝶を送ってこられたのを記憶しています。先生はその蝶の裏面の変わった碁石模様からタイワンゴイシシジミ（当時のゴイシツバメシジミの和名）ではないかと思われて、いささか興奮気味でした。しかし、それでも二つの疑問を持たれました。小林さんが台湾に採集旅行に行つて、そこで採集した蝶を三角紙（採った蝶を入れる紙袋）に入れたのを、そのままうっかり三角缶（採集用のケース）に入れっぱなしにして、それを市房山の採集の時に持参したのではないかと？もう一つの疑問は、もし市房山で採れたとしても、それは迷蝶なのか、あるいは真にタイワンゴイシシジミなのか？先生は早速小林さんに初めの件を尋ねたのですが、小林さんは一度も台湾で蝶を採集したことはない、との返事でした。これは大変な発見だ！ということで、先生は私にこの標本が間違いなくタイワンゴイシシジミであるかを確認するために、♂の交尾器を調べるように言われ、私がおその標本の腹の先を解剖することになりました。その結果は疑いもなくこの標本は、それまで台湾や中国などから知られていたタイワンゴイシシジミの♂であることが証明されました。しかし、蝶は時々長距離を飛んできたり、あるいは台風などに巻き込まれて台湾やもっと遠くの南の島から運ばれてくることがあります。いわゆる迷蝶、偶産蝶です。

迷蝶であるかを確認するために、翌年初めて水上の市房山を訪れました。そこには間違いなくこの蝶が樹間の高いところを飛んでいるのや、地上の湿地で吸水しているのが観察できました。そればかりか、樹上の着生植物の花にそれらしい卵も見つかったのです。私は幸運にも採集できた 1 頭の雌の蝶と、シシンランの小枝を持って、宿にしていた市房観光ホテルに戻りました。その夜、宿の一室で、天井の電燈を消して、小さな電気スタンドを灯し、その近くにシシンランの小枝を立てて雌の蝶を放しました。同行の皆さんが注目する中で、この蝶はチラチラと飛んだあと、驚くことにシシンランの蕾に止ると腹をまげてそこに青白い小さな卵を次々と産み付けたのです。見ていた 1 人、熊本昆虫同好会の故大塚勲さんは、そのさまを、「これはチョウチョのサーカスだ」、と感嘆していたのを、今もはっきりと覚えています。この時が、市房山にゴイシツバメシジミが棲みついていること、さらにシシンランの蕾がこの蝶の幼虫の食餌であること、が明らかになった瞬間でした。今、この会の立ち上げに努力された西和人さんのお父さんが経営されていたホテルでのこの出来事は、その後、半世紀を経て設立されたこの会との不思議な因縁を感じないわけにはいきません。

この 1 頭の蝶の採集がその後の私の昆虫学を研究する方向に少なからず影響を及ぼすことになりました。研究室で産卵された卵から成虫になるまでの一部始終を観察・記録する日が続きました。以来、この蝶とのお付き合いは今なおずっと続いています。その後、国に天然記念物への指定を要請し、学会でこの発見を発表しました。そして、この蝶との本格的な取り組みは九州森林管理局と日本森林技術協会の中野英泰さんや金森匡彦さんらが国の事業としてこの蝶の生息調査に乗り出した平成 8 年からです。当時私達の研究室の研究生であった杉本美華さんに協力を依頼して、二人で専門家としてこの調査に携わりました。それ以来、十数年の歳月に亘ってこの蝶の生息状況を調査し、保全に努めてきました。

ゴイシツバメシジミはその後、内大臣峡、白髪岳、奈良県の川上村、宮崎県の須木村でも発見されましたが、内大臣峡以外は蝶類蒐集者の違法乱獲や森林伐採で発見後数年を経ずに絶滅したようです。幸いにして、市房山は地元水上村独自の監視事業などに助けられて、この蝶は今も命脈を保っています。

蝶に限らず希少な自然、希少な生物を保全するために欠かせない大切なことは、なにより地元民の理解と協力です。地元の自治体や住民の一人一人が、郷土の生きた宝物として、日本いや世界に誇れる自然遺産の一つとして、その保全に努めて頂くことが、このような希少な生き物の絶滅を防いでくれる最も大きな力です。水上村には世界に誇れる生きた宝物が二つもあります。ゴイシツバメシジミともう一つはコブハナダカカメムシです（これについては水上村誌自然編に詳しい）。しかし、まだまだ未発見、未発掘の宝物がこの村、市房山に眠っていることは間違いありません。この度、「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」が西さんや村の多くの皆さんによって立ち上げられたことは、私も昆虫を研究している者にとっても、これほど喜ばしく心強いことはありません。生まれたばかりのこの会が今後大きく発展して、ゴイシツバメシジミにとどまらず水上村の素晴らしい自然の貴重さを世の中にまた誰より村の子供たちに伝え、郷土の自然をしっかりと育んでいかれることを大いに期待しています。

会の目的

ゴイシツバメシジミの保護活動を通して市房山の原生林を後世に残し、自然の素晴らしさおよびその重要性を発信するとともに、地域活性化に寄与する活動を行い村の活性化を図る。

会の目標

- ・ゴイシツバメシジミの飛翔する姿がこれまで以上に生息地において普遍的に確認することができるようになること。ゴイシツバメシジミが多数生息できるということは、生息地の環境も保全されていることを意味する。
- ・村内外から来られた多くの方々にごイシツバメシジミを観察してもらうことにより、ゴイシツバメシジミが生息可能な貴重な自然を残す事の重要性を実感として感じてもらう。また、ゴイシツバメシジミとその生息域を案内できる体制も整える。

会の名称

「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」

ゴイシツバメシジミを保護するということは、ゴイシツバメシジミが生息する環境を守ることになるという意味で会の名称を決定した。

2012年度の活動内容

2012年8月9日：「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」設立総会開催

- ・会の名称、組織、運営方針、運営内容についての話し合いが行われた。
- ・熊本日日新聞、西日本新聞、人吉新聞の3社から会合の様子が伝えられた。

2012年10月9日：「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」第一回会合

- ・会の運営、メンバー、活動内容等についての話し合いが行われた。

2012年10月30日：シシンラン増殖講習会

- ・三枝先生によるシシンラン増殖法についての講習会を行った。
- ・NHKによる取材も行われ、熊本ローカル番組で11月7日：18時30分より5分ほど放映された。

2012年12月17日：「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」第二回会合

- ・会費、保護活動の内容、次年度の計画等についての話し合いが行われた。

2012年12月18日：「ゴイシツバメシジミ連絡調整会議」（熊本県南部森林管理署主催）への参加

- ・市房山キャンプ場にて環境省、熊本森林管理局、日本森林技術協会、水上村役場等が集まりゴイシツバメシジミ保護活動についての話し合いが行われた。
- ・熊本日日新聞、西日本新聞、人吉新聞の3社から会合の様子が伝えられ、「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」での会員募集記事も記載していただいた。

2013年度の活動内容予定

2013年 4月：「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」会報発行・送付

2013年 6月：葉芽刺しによるシシンラン増殖活動

2013年 6月：「ゴイシツバメシジミの郷を守る会」第一回総会@水上村

2013年 6月～8月：ゴイシツバメシジミ定点観測、分布調査@市房山

2013年 8月：ゴイシツバメシジミ観察会@市房山

2013年12月：ゴイシツバメシジミ観察データまとめと報告会

- ・尚、2013年度はゴイシツバメシジミの小冊子作成を予定しております。

会員構成（2013年3月31日現在）

- ・会長：(1名) 西 和人
- ・個人正会員：8名
- ・個人賛助会員：8名
- ・顧問：(4名) 三枝 豊平（九州大学名誉教授）、杉本 美華（九州大学総合研究博物館）
金森 匡彦（日本森林技術協会）、中原 英泰（日本林業技師会）
- ・事務局：幸野 一樹（水上村教育委員会教育課内）

お知らせ

会員募集

個人正会員、個人賛助会員、法人会員を大募集しております。それぞれの年会費は以下の通りです。

- ・個人正会員：2,000円（会の趣旨に賛同される個人、かつ会の活動に参加可能な方）
- ・個人賛助会員：2,000円（会の趣旨に賛同される個人。但し会の活動に参加するのが困難な方）
- ・法人会員：5,000円（会の趣旨に賛同される法人）

会員登録された方には、毎年発行する広報とゴイシツバメシジミ観察会へのご案内等、保護活動に関する情報をお知らせ致します。申し込みは、添付の申し込み用紙へご記入の上 FAX（0966-44-0329）か直接事務局までお送り下さい。

広報原稿大募集

広報に記載する原稿を、会員の皆さまから募集しております。ゴイシツバメシジミに関わらず、環境保全や市房山に関する記事でしたら何でも構いませんので是非ご投稿下さい。

後記

ここ数年懸案であったゴイシツバメシジミの保護団体をようやく立ち上げる事が出来ました。これも、村内外の皆さまのご協力のお陰です。紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

今、世の中では人々が経済発展による恩恵を受ける代償として多くの生物が絶滅の危機に追いやられています。こうした状況はなんとかしなければならぬと生物多様性保護の機運が盛り上がっていますが、何故絶滅の危機に瀕した生物を守る必要があるかというのは結構難しい問題です。唯、難しい理屈抜きに、このような状況を放置することで滅びゆく生き物たちに、多くの人たちが人間の未来を重ね合わせるのではないのでしょうか？ 私達の活動も、後世に人間と他の生物が共存できる環境を残すことに少しでも貢献できれば良いと考えています。（西）